

研究テーマ

自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもって生活する児童の育成

提案者 若 村 健 一

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

生活科の究極的な目標は、自立への基礎を養うことである。児童は、自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもつことによって、自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくことができるようになる。それが本研究で目指す児童の姿である。

生活科における栽培活動においては、児童が日常的・継続的に繰り返し対象に関わることが大切である。対象に繰り返し関わり、そこから生まれた様々な気づきを自分自身への気づきへと高めていくことが、自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもって生活する姿につながる。

たとえば、1学期に自分が一生懸命育てた花が咲くという達成感を味わった児童は、「また何かを育ててみたい」と次の活動への意欲をもつ。そして、2学期に違う花を育てたときには、1学期と今の花の様子を比べ、「次はこうなるだろう」と予想し、見通しをもちながら、自分の活動を決めていく。また、自分の植物への関わり方を振り返りとらえ直ししながら、「前と比べて世話が上手になった」「もっといろいろな方法で花を育てたい」など、自分のよさや可能性に気づき、次なる活動への意欲と自信をもつことができると考える。

これまでの2年間、意欲や自信をもって生活する児童の育成に取り組んできた。しかし、対象と自分との関わりに対する気づきから、自分自身への気づきにまで高めていくことには課題が残った。それは、対象と自分との関わりを振り返りとらえ直す活動を単元の終わりにしか設定していなかったためと考える。そこで本研究では、児童が自分の活動したことを言葉や絵などで表現し、自分がこれまで対象とどのような関わりをしてきたのかを明確にする。そして、表現したことを基に友達と交流する活動を単元の中に意図的に設定する。友達と互いのよさを認め合いながら交流を行い、それまで気付かなかった自分自身のことに目が向くようにしていく。このような活動を仕組むことで、児童が対象と自分との関わりを振り返りとらえ直し自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもって活動することができると思った。



以上のことから、自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもって生活する児童を育成することを研究テーマとした。

2 テーマにせまるための方策

— 視 点 —

対象と自分との関わりを振り返りとらえ直すことで、自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもって生活することができるようにする。

〈手立て〉

対象と自分との関わりを振り返りとらえ直すようにするために、交流する活動の工夫を図る。

→1年生では、植物と自分との関わりについての気づきを教師が取り上げ、その共有化を図りながら、対象と自分との関わりを振り返りとらえ直すことができるようにする。

→2年生では、話し合いから抽出した観点を基に、交流する活動を設定することで、対象と自分との関わりを振り返りとらえ直すことができるようにする。